

大会長挨拶



第40回日本分子生物学会年会 年会長
篠原 彰
(大阪大学蛋白質研究所)



第90回日本生化学会大会 会頭
大野 茂男
(横浜市立大学医学部)

ConBio2017参加者の皆様

この度はConBio2017に参加、あるいは発表して頂き、誠にありがとうございます。すでにお知らせしてありますようにConBio2017は第40回日本分子生物学会年会、第90回日本生化学会大会の合同開催の枠組みを基本とし、FAOBMB (Federation of Asian and Oceanian Biochemists and Molecular Biologists Incorporated) との共同開催、そして国内の37の学会・団体が協賛する形を取りました。そして、二つの主催学会のみならず、上述の協賛学会の多くがシンポジウム・ワークショップなどの企画を主導してくださいました。その意味で、わが国の生命科学の総力を挙げた学術集会となると思っています。

近年の生命科学は、専門分野の深化が進むと同時に、分野を越えた研究が急進展しています。世界を見渡した時に、生命科学の分野では学術集会は大きく二つの形態に分けられます。現在の主流は、焦点を絞り第一線の専門家が集まる形態(Gordon conferenceなど)です。もう一方が、様々な分野の専門家が集う比較的規模の大きな集会です。米国では複数の学会や組織が合同で大会を開催するなど(FASEBの試み、ASCBとEMBOの合同大会の試み)、学会の枠を超えた様々な開催形態が模索され続けています。このような中で、「学会が主導する年に一回の学術大会」のあり方を考えた時に、先端の研究者だけではなく、生命科学に興味を持った若い研究者の卵たちを主役にした場を提供する事を考えました。その試みの一つが、学会の枠を超えて生命科学の広い分野の専門家が集う、今回の合同大会です。

本大会は日本分子生物学会、日本生化学会の合同大会BMBと同様に、プレナリー講演、シンポジウム、ワークショップ、一般口頭発表、ポスター発表、フォーラム、ランチョンセミナー、企業学術団体展示からなります。新たな試みとして、全プレナリー講演、ならびにシンポジウム、ワークショップの多くについて、オンデマンド配信(指定講演1025演題中、733演題※10月10日現在)を行います。これにより、時間帯の重なりなどにより聞き逃した発表を聞くことが可能です。異分野との交流機会が増えることも期待できます。ポスター発表は、時間帯を午後一番にしました。そして、隣接の展示会場に足を運びやすいようにしました。展示会場では、研究機器や試薬に関する最新情報などの役に立つ情報を得ることができます。本大会の最大の支援者が協賛企業であることを踏まえ、企業側にとっても魅力のある大会運営を目指した試みの一貫です。ご意見をいただければ幸いです。

是非とも本大会にご参加いただき、本大会の様々な試みの実際をご体験いただくと同時に、参加後には研究室のデスクで、オンデマンド配信をゆっくりとお楽しみいただきたいと思います。

なお、今回の試みに対して多大なご支援を下された日本分子生物学会と日本生化学会、協賛学会・団体、多数の企業や学術団体の皆様、日本製薬団体連合会、中内力コンベンション振興財団や神戸市に対して、心より御礼申し上げます。